

平成29年度 学校評価表

徳島県立つるぎ高等学校

重点課題	重点目標		活動計画	評価指標	評価指標による達成度と活動計画の実施状況	評定	総合評価及び所見	学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方策	
	全体レベル	下位組織レベル								
人権教育の充実	① 生徒の自立と自己実現を図る。	1 「人権の日」を実施し、日常生活の中で生徒の人権意識の涵養を図るように努める。	生徒アンケートで「人権の日が有意義であった」を85%以上にする。	達成度は85%であり、生徒の人権意識の涵養に一定の成果があった。	A	(評定) A	全ての教育活動の中で人権教育が行われていると感じられる。これからも人権意識高揚に努めてほしい。 また、教職員研修として、大島青松園や美馬フィールドワークは大変有意義であり、地域の方々の思いを受け止めた人権研修である。予算面では、厳しいと思うが、充実した研修を続けてほしい。 特別支援学校への教材の提供は、マスコミにも取り上げられており、素晴らしい活動であり、これからも続けてほしい。	差別の実態に学ぶ参加型の人権学習を進めるため、次年度も、大島青松園でハンセン病回復者と生徒・教職員・保護者の交流会を進めていく。 また、フィールドワークも継続して実施し、教職員の研修を深めていく。そして、教育活動全てにおいて、人権について考える機会を積極的に取り入れていく。		
			2 「人権学習ホームルーム」を実施する際に、普遍的な視点と個別的な視点の双方から取り組み、個人人権課題を積極的に取り扱う。	生徒アンケートで「ホームルーム活動(人権)が有意義であった」を90%以上にする。	達成度は91%であり、普遍的な視点と個別的な視点の双方から取り組むことができた。				A	
		② 教職員研修の充実を図る。	1 美馬フィールドワークを実施し、地域の方々の思いを受けた人権研修に取り組む。	教職員アンケートで「美馬フィールドワークが有意義であった」を80%以上にする。	達成度は96%であり、地域の方々の思いを一端ではあるが、感じ取ることができた。				A	
				2 人権教育に関する研究授業・研究協議に全職員で取り組む。	教職員アンケートで「研究授業・研究協議が有意義であった」を95%以上にする。				達成度は96%であり、研究授業・研究協議が自分の授業に生かされた。	A
					3 人権教育職員研修会への参加率を高める。				教職員アンケートで「ティームティーティングが有意義であった」を50%以上にする。	本年度、全体としてのティームティーティングは実施しなかった。研修への参加状況は改善が見られた。
		③ 学校・家庭・地域の連携の推進を図る。	1 保護者や地域の方々が参加できる人権教育講演会や研修会を実施する。	人権教育講演会や研修会に保護者や地域の方々から10名以上の参加を得る。	人権教育映画1名、大島青松園訪問1名の延べ2名の保護者へ人権教育研修を実施した。				B	
	2 異校種間交流の充実に努める。			特別支援学校にユニバーサルデザインの考え方を取り入れた教具を提供する。	特別支援学校へ音楽教材となる教具を提供した。	A				
	④ 生徒の自主活動の活性化を図る。	1 美馬高校生友の会や「中・高生人権交流事業」に積極的に参加する。	美馬高校生友の会に年間9回以上参加する。「中・高生人権交流事業」西部ブロック実行委員会及び生徒部会に年間6回以上参加する。	美馬高校生友の会、西部ブロック実行委員会及び生徒部会に参加する生徒が少なく、積極的に活動できなかった。	B					

重点課題	重点目標		活動計画	評価指標	評価指標による達成度と活動計画の実施状況	評定	総合評価及び所見	学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方策
	全体レベル	下位組織レベル							
学習指導の充実	①	主体的に学習に取り組み、他の人と協働しながら学ぶ態度を育てる。	1	全ての教科で学習目標を明確にし、学習内容の意義を自覚させることで、生徒が主体的に学ぶ意欲と態度を充実させる。	生徒アンケート「主体的に授業に取り組むことができたか」を80%以上にする。 職員アンケート「授業中、ICTの活用やアクティブラーニング等による対話的な授業の実践に努めたか」を80%以上にする。	生徒に対して5つの観点からアンケートを実施した。総計78.9%の生徒が主体的に授業に取り組むことができたと答えた。職員アンケートでは85.2%が実践に努めたと回答した。	A	A (評定)	生徒に対して5つの観点からアンケートを進めるなど、きめ細やかな評価がなされている。 また電子黒板が全教室に設置されたことにより、授業形態が大きく変化し、興味関心がわく授業展開ができたのではないかと感じる。 図書の購入が増えているが、図書館利用者が増えるように、努力してほしい。 難関資格では、電験3種や機械加工部門で合格者を出している。非常に難しい資格ではあるが、引き続き取得に向けて頑張してほしい。
			2	各教科における調べ学習や読書会等とおして学校図書や計画的な利活用を図り、生徒の主体的、意欲的な学習活動や読書活動を充実させる。	各クラス年1回以上図書室を利用し、学習活動を行う。 読書会を年1回以上企画する。	国語科と協力し、授業において年1回以上の図書室利用、クラス読書会を実施できた。	A (所見)		
	②	基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着させる。	1	「基礎学」(朝15分間)の時間を計画的に実施し、基礎学力の定着・向上を図る。	生徒アンケート「基礎学の時間は有意義だった」を80%以上にする。	生徒の86.0%が有意義だったと回答した。	A		
			2	テスト前日の家庭学習時間調査を行う。	テスト前の家庭学習時間調査で「平均学習時間を対前年度10%増」にする。	昨年度と比較して、2年生は48%、3年生は9%学習時間が伸びた。	B		
	③	基礎的・基本的な知識・技能の習得に加え、これらを活用し、主体的・対話的で深い学びを実践するための指導方法の工夫・改善を図る。	1	各種資格の学習とおして、知識技能を身に付けるための学習方法を習得するとともに、自らの職業意識を高め、進路の方向性を見いだす力を養う。	各学科で基礎・基本となる資格検定を設定し、1年次において取得率85%以上にする。  難関国家資格・検定試験の受験を奨励し、地域社会の発展に貢献できる技術者の育成を目指す。 第三種電気主任技術者試験合格1名以上 ジュニアマイスターゴールド取得3名以上 2級土木施工技術者試験合格1名以上 2級建築施工技術者試験合格1名以上 全商3種目1級資格取得10%以上	(電)第2種電気工事士82% (機)計算技術検定3級96% (建)計算技術検定3級100% (商)全商5種目87% (地)全商5種目89%  第三種電気主任技術者1名合格 ジュニアマイスター特別表彰ゴールド2名+ゴールド1名計3名 2級土木施工管理技術者試験合格2名 2級建設施工管理技術者試験合格4名 全商3種目1級資格取得者23%(11名)	B	A (所見)	
						2	工業と商業が連携して、地域の資源を生かした教育活動に取り組むとともに、その成果を機会を捉えて県内外に発信する。		

重点課題	重点目標		活動計画	評価指標	評価指標による達成度と活動計画の実施状況	評定	総合評価及び所見	学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善策
	全体レベル	下位組織レベル							
キャリア教育の充実	生徒一人一人の社会的・職業的自立に向けた必要となる能力や態度を育成する。	① 自己の特性を理解させ、自らのあり方・生き方を考えさせる進路指導の充実を図る。	1 進路に関するHR活動及び、進路相談を計画的に実施する。	生徒・保護者アンケート回答での「進路指導が役に立っている」の評価を85%以上にする。	保護者89%、3年生96%が役に立ったと回答した。	A	(評定) A	進路希望が叶う学校であることが、生徒たちの夢の実現に繋がると思う。引き続き生徒一人一人の進路実現に向けて、真摯に取り組んでほしい。 応募前見学やオープンスクールへの参加を積極的に奨励し、進路選択のミスマッチがないようにしてほしい。	キャリア教育を1年時より継続的に実施し、自分らしい生き方を実現するための力を育成していく。また、インターンシップを奨励し、職業観・勤労観の充実に繋げていく。 企業選択時のミスマッチを可能な限り少なくできるように、進路に関する情報を積極的に発信し、生徒・保護者の進路選択に役立てるように努める。
			2 進路説明会・進路通信をとおり、生徒・保護者に進路情報を提供する。	進路説明会と進路通信を、年3回以上発行する。	進路説明会を開催した。進路通信を、年3回発行した。	A	(所見) 就職希望者全員が早々と内定を得ることができたのは、旧2校をはじめ、つるぎ高校の卒業生が全国各地で長年に渡り活躍されているお陰である。しかし、その背景には長年に渡り保護者・生徒・教職員が一丸となって営々と築いてきた本校の教育実績がある。		
		② 望ましい勤労観・職業観を育成し、生徒の希望・能力・適性に合った進路の実現を図る。	1 三者面談や個別指導などとおして、生徒・保護者の希望・適性に合った進路指導を実施する。	「希望・適性に合った進路決定ができた」の生徒アンケート回答を85%以上にする。	生徒の93%が「自分の決定した進路に満足している。」と回答した。	A	また進学についても、個別指導に重点を置いた、生徒個々の実力に見合ったきめ細かい指導の結果、1名を除き希望した大学等に進学できた。		
			2 SPIなど、学力試験の変化に対応した、模擬試験を実施する。	就職試験(1次)での内定率を80%以上にする。	就職試験(1次)での内定率は93.0%であった。	A			
		③ 進路開拓を推進し、進路先の確保に努める。	1 企業訪問を実施し、就職求人数を確保する。	訪問企業数を80社以上、求人数を300人以上にする。	訪問企業数は80社以上、求人数は1300人を超えた。	A			
生徒指導の充実	① 基本的な生活習慣を育成する。	1 服装・頭髪検査に合格しない生徒には保護者と協力し粘り強く指導を行う。	頭髪服装検査を年10回以上行う。	評価指標どおり年10回以上実施した。チェックを受けた者は再検査を徹底し、全員合格した。	A	(評定) A	異常気象で雪が積もる日が多くあった、非常に危険な交通事情になるので、さらに安全教育的充実を図ってほしい。 本年度は、県内の教職員の不祥事が何度か取り上げられている。一度信用をなくすと、取り返しのつかないことになる。本校でも、コンプライアンスの充実を図ってほしい。 服装・頭髪には清潔感があり、校内外を問わず挨拶をする等、近隣の方々からの評価は高い。引き続き校内巡視等、学校生活における生徒の観察を十分に実施してほしい。 重大事故は注意しているが、危険を回避できる能力の育成が大切であり、引き続き安全教育的充実を努めてほしい。また、事故後の対応にも十分配慮してほしい。		
		2 遅刻過多の生徒については保護者と綿密な連携を行い指導する。	遅刻者0名の日を年間55日以上にする。	目標日数は達成した。保護者との連携、登下校指導などの効果が見られた。	A	(所見) 1月1回の全校集会で服装・頭髪検査を実施した。また、校内外での生活指導を徹底し、自他の生命の尊重を特に重視し、非行防止に努めた。列車通学生の乗降及び列車内でのマナー等の指導も徹底した。			
	② 交通安全意識の高揚と交通安全マナーの向上をめざし、交通安全教育の推進を図る。	1 JR貞光駅から校門までの交通危険箇所での立哨指導を行う。特に下校時の巡視を徹底する。	登校下校の立哨指導を授業日の95%以上行う。	評価指標どおり実施できた。特に駅から通学路、踏切、校門までの登下校指導は徹底できた。	A	交通危険箇所での立哨指導をはじめ、毎朝校門前での挨拶の励行など登校指導を行った。各学期に通学別集会、調査期間中の列車指導、警察署等関係機関からの交通安全に關わる講演・講習会を実施し、自転車・原付バイク及び徒歩通学者の交通マナーを呼びかけた。しかし、残念ながら登下校時に重大事故を起こしている。			
		2 通学別集会を各学期に行い、マナー・モラル向上を意識し、登下校ができるように指導する。	交通安全行事(通学別集会・交通安全講習他)を年5回以上実施する。	評価指標どおり実施できたが、生命に危険を及ぼす重大な交通事故が発生した。	B				
	③ 良好な対人関係を構築できる社会性を育成し、暴力・いじめ等重大な人権侵害を未然に防止する態勢を整える。	1 各課において道徳教育の目標を定め、道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養う。	各課・各学年において、それぞれ具体的な取組を行う。	全校集会或いは学年集会時に徹底した指導ができた。	A				
		2 無記名による調査を実施し、暴力・いじめにつながる行動などを把握し対応する。	暴力・いじめ等に関する無記名調査を年3回実施する。	評価指標どおり実施できた。各学期に実施することができ、HR担任との連携を密にとり対応できた。	A				

重点課題	重点目標		活動計画	評価指標	評価指標による達成度と活動計画の実施状況	評定	総合評価及び所見	学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方策
	全体レベル	下位組織レベル							
主権者教育・消費者教育の充実	将来を担う主権者としての教育の充実を図る。環境や社会に配慮した消費者教育の充実を図る。	① 政治や選挙制度に対する理解や参加意識を高め、自ら考え、自ら判断する主権者を育成する教育の充実を図る。	1 主権者教育を推進する上で、教員が留意すべきことについての共通理解を図るための研修を行う。	主権者教育に関する研修を、年2回実施する。	主権者教育に関する研修を、2回以上実施できた。	A	(評定) B	衆議院総選挙では、徳島県の投票率は全国最下位と残念な結果となっている。若者の政治離れを防ぐことが喫緊の課題であると考え。主権者教育を進めることで、地域の課題を自ら考え、主体的に解決するような若者の育成に励んでほしい。	教職員に主権者教育の研修を適宜行い、共通理解を図る。主権者教育に関する授業を計画的に実施し、社会において消費者として主体的に判断し責任を持って行動できる能力を育むことを目標とする。消費者教育に関する授業を計画的に実施し、社会において消費者として主体的に判断し責任を持って行動できる能力を育むことを目標とする。
			2 政治の仕組みや知識の習得だけでなく、主権者として自覚し、他者と連携・共同しながら地域の課題解決を主体的に担うことができる力を身につけさせる。	各教科・HRで主権者教育に関する授業を実施し、アンケートにおいて理解度を70%以上にする。	HRでは、主権者教育を実施できたが、各教科においては、あまり実施できなかった。	(所見) 徳島県消費者情報センターから講師を迎え、1年生全員と2年生1クラスを対象に出前授業を行った。契約に関する基本的な考え方や契約に伴う責任を理解することができた。	B		
		② 持続可能な生産と消費を重視した活動において、主体的に取り組む態度を育成する教育の充実を図る。	1 自立した消費者をめざし、消費者の権利と責任を理解し、消費者問題に取り組む姿勢を養う。	消費者教育に関する授業を実施し、アンケートにおいて理解度を90%以上にする。	1年生全員と2年生1クラスを対象に出前授業を行った。理解度は「少しわかった」を含めると、2年生が100%だった。	A			
			2 企業の社会的役割やソーシャルマーケティングを学習し、消費者教育の充実を図る。	消費者教育に関する授業を年1回実施する。	消費者教育に関する授業は、2年生を対象に年2回実施した。	A			
特別活動の推進	部活動を充実・活性化させ、生徒の精神面、体力面での成長を図るとともに、団結心や協力を育成する。学校行事、生徒会活動の充実を図り、ボランティア活動の機会を取り入れ、豊かな人間性を育てる。	① 生徒会活動についての積極的広報と生徒会活動への理解と協力を促す。	1 生徒会新聞の発行とホームページの更新を適宜行う。	生徒及び職員の生徒会活動に対する満足度を90%以上にする。	生徒会新聞の発行とHPの更新も適宜行った。また満足度は、生徒が92%、職員が100%であった。	A	(評定) A	学校の屋上の横断幕で、全国大会出場がよく分かる。体育関係、文化関係ともに素晴らしい活動をしていると感じている。常に県内で上位を取り続け、全国大会出場を果たすことは難しいと思うが、引き続き頑張ってもらいたい。	礼儀正しい挨拶は、近隣の方々や来校される方々からも、褒めていただいている。引き続き挨拶運動に努めていく。本年度は、全国大会に出場する部が多く、学校全体が活気づいた。引き続き部活動の活性化に繋がるように努めたい。また、部活動の入部率向上のために、さらに努力していく。清掃活動は継続して続けていき、周辺地域に貢献していく。来年度以降も実施する。
			2 生徒会役員を中心とした挨拶運動を実施する。	挨拶運動を毎月1回実施する。	評価指標どおり毎月1回実施した。	A	(所見) 部活動は限られた時間の中で、各部練習方法などを工夫して成果を上げている。		
		② 各種委員会を活性化させる。	1 各種委員会が主体となった学校行事を実施する。	生徒及び職員の学校行事に対する満足度を90%以上にする。	満足度は生徒が96%、職員が100%であった。	A	生徒会・部活動の活動も校内はもとより、貞光駅清掃や吉野川河川敷等の環境美化活動を定期的に行うことにより、地域の方から好感を持たれるとともに、生徒の豊かな人間性の育成の一翼を担っている。		
		③ 部活動への入部率及び継続率を向上させる。	1 部活動入部までの放課後の時間(見学できる時間)を確保する。	部活動入部率・継続率の向上(入部率90%以上、1年間継続率95%以上)	部活導入部率98%、1年間継続率95%であった。	A			
		④ 部の活動に奉仕活動を加え、豊かな人間性の育成に努める。	1 各部活動が自主的に奉仕活動を実施する。	5部以上の部活動が奉仕活動を実施する。	JRC部、ラグビー部、サッカー部、ソフトテニス部、バスケットボール部などが奉仕活動を実施した。	A			

重点課題	重点目標		活動計画	評価指標	評価指標による達成度と活動計画の実施状況	評定	総合評価及び所見	学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方策
	全体レベル	下位組織レベル							
教育相談・特別支援教育の推進	学校全体での組織的支援体制及び関連機関との連携による支援体制の充実を図る。	① 一人一人に応じた特別支援教育の推進を図る。	1 特別支援教育に関する職員研修会を実施する。	職員研修会を年2回行う。	研修会は、年1回実施し、特別支援教育について研修を深めた。	B	(評定) A	生徒一人一人の情報交換を密にし、十分な支援体制の構築を図ってほしい。 本年度は支援を必要とする生徒はいないが、支援を要する生徒には常に注意を払い、支援教育の充実をお願いしたい。	特別支援教育の研修を充実させ、全教職員の理解を深め教育力向上を図っていく。また、様々な支援事業や機関と連携を深め、支援が必要になった時にすばやく対応できる体制を構築していく。 全職員を対象に「心肺蘇生法とエビベン実技講習会」を実施し、緊急事態の時にAEDやエビベンを使用できるようにする。
			2 支援が必要な生徒には、個別の支援計画を立て、カウンセラーや専門機関と連携して支援を行う。	支援が必要な生徒に、個別の支援計画を立てる。	今年度、個別の支援計画が必要な生徒はいなかった。教育相談便りを年2回発行し、教育相談の案内を広報した。	A	(所見) 全職員を対象に「心肺蘇生法とエビベン実技講習会」を実施した。また、発達障がい者支援センターアイリスの方に文化祭に参加していただき、広報活動と相談の場を持った。個々の対象生徒に対しては、関係職員が情報の共有化を図り、連携を密にして指導することができた。		
		② 教育相談活動の一層の充実を図る。	1 一人一人の生徒への声かけや定期的な個人面談による教育相談を行う。	生徒保健委員会を毎月開催するとともに、保健だよりを毎月発行し、保健に関する啓発活動を行う。	保健委員会は毎月開催、保健だよりは毎月発行した。保健室において、個人面談による教育相談を行った。	A	評価指標どおり年2回実施し、調査結果を教職員に報告し、情報の共有化を図った。		
			2 生徒一人一人の心身の状況を把握するために「悩み・心配事」の調査を行う。	「悩み・心配事」の調査を年2回実施する。		A			
環境・防災・安全教育の推進	環境問題への意識高揚と環境学習の推進を図る。防災教育を推進し、災害発生時の支援活動等の実践力を育成する。	① 環境問題学習の一層の推進と啓発を進める。	1 環境保全活動啓発ポスターの作成・掲示を行うことにより、省エネ・エコ意識を高揚させ、節電・節水に努める。	電気・水道使用量は昨年度を基準に節制する。	電気・水道使用量は、ほぼ昨年と変わりなく節電・節水に努めることができた。	A	(評定) A	今年度は特に寒い冬となっているが、暖房費が上がることなく、節電に努めた効果がよく現れている。 防災避難パネルの設置が新聞で載っていたが、地域の防災を考える上で、つるぎ高校が中核となる施設として、地域の方々に安心・安全を提供できている。 救急救命法の講習を毎年実施しているが、継続して取り組んでほしい。 また、救急救命法の訓練では全教職員が訓練を重ね対応ができるよう啓発・指導する。	
			② 校内・校外清掃の活性化を図る。	1 全職員による毎日の清掃指導を実施し、教室の清掃を徹底的に行い、清潔な学習環境を作る。	職員及び生徒の実施できている自己評価を95%以上にする。	毎日、全職員・生徒で一生懸命清掃活動に取り組んでいるので適切な学習環境の維持ができている。	A		
		2 生徒が利用している校外の施設等清掃活動を行い、地域の環境美化に努める。		年1回以上、貞光駅や吉野川周辺の清掃活動を行う。	各部活動の生徒中心に清掃をしたり、生徒会を中心にした清掃活動は地域に貢献している。	A			
		③ 防災・安全教育を推進する。	1 防災訓練を実施する。	火災を想定した防災訓練と地震を想定した防災訓練を行う。	自然災害を想定した防災・救急救命訓練を実施した。	A			
			2 AED講習会を実施する。	職員アンケート「AEDを使用できる」を95%以上にする。	緊急時にAEDを使用できる職員の割合が昨年より多くなってきている。	A			

重点課題	重点目標		活動計画	評価指標	評価指標による達成度と活動計画の実施状況	評定	総合評価及び所見	学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方策					
	全体レベル	下位組織レベル												
開かれた学校づくりの推進	①	情報発信を積極的に行う。	1	ホームページを利用して、各種行事など生徒の活動状況を発信する。	ホームページを更新し、最新情報を提供する。(更新回数60回以上)	ホームページは65回以上の更新を行った。(2月20日現在)	A	(評定) A	新聞に66回も取り上げられ、つるぎ高校の活躍を見るのが楽しみであり。これからも、情報発信に努めて、地域に密着した学校であってほしい。PTA活動では、体育祭でのバザー等で活気が感じられる。家庭の協力を得ながら、教育活動を進めてほしい。	さらに、ホームページを更新することにより、教育活動を発信し、保護者や地域の方々、中学生等にも本校の教育活動に対してご理解・ご支援を得るように努める。生徒募集の面では、専門高校合同説明会が台風で中止となった。合同説明会の対象者は中学1・2年生であるため、本校に対する興味関心を持っていただく大事なイベントであり、次年度に向けてPR活動を充実させたい。				
			2	マスメディア等を通じて、学校情報を積極的に発信する。	徳島新聞、四国放送、NHK等に資料提供を積極的に行う。	徳島新聞等に67回、テレビ等に5回、四国放送ラジオに1回、取り上げられ、本校生徒の活躍が紹介された。	A				(所見) PTA総会、役員会、体育祭等の各行事において多くの保護者の参加協力をいただいた。本年度初めて県内の障害者支援施設と連携を図りPTAバザーを行い好評であった。昨年に続きPTAで揃いのTシャツを作成した。こちらも好評であった。			
	②	PTA活動の活性化を図る。	1	PTA総会・役員会の活性化を図り、参加率を向上させる。	役員会40%以上、総会30%以上の参加を得る。	役員会は37.1%、総会は24.8%の参加であった。	B				中学生体験入学やオープンスクールは大変好評で、中学校進学説明会も興味深く話を聞いてくれており、手応えを感じている。			
			2	体育祭等の行事で、PTA家庭教育研修部による模擬店や展示を実施する。	体育祭等の行事においてPTA家庭教育研修部役員の参加率50%以上を得る。	PTA役員の参加率は70%であり、PTA役員以外の保護者も多数参加していただいた。	A							
	③	中学校との連携を図る。	1	中学生体験学習の充実を図る。	参加者アンケートにおいて「満足度」を90%以上にする。	参加者アンケートで満足度は99%であった。	A				昨年度は募集人員+5名の出願があった。今年度は、募集人員+3名の出願であった。			
			2	中学校への進学説明会を充実する。	一般選抜の願書受付時点で、前年度以上の出願者数にする。	参加者アンケートでは満足度100%であった。	B							
			3	オープンスクールの充実を図る。	参加者アンケートにおいて「満足度」を90%以上にする。		A							
	地域と連携した専門教育の充実	①	行政機関との連携強化を図る。	1	つるぎ町及び美馬市と連携した地域貢献活動を推進する。	つるぎ町や美馬市のイベントに参加し、地域のPR活動を行う。	和傘制作に取り組むとともに、「うだつの町並み」で観光客に和傘製作を実演するなど地域の魅力発信に貢献した。				A	(評定) A	「みまからさつくりーふ」など、企業と連携した商品開発をしており、地域の特産物を使った取組は、地域の活性化に繋がっている。また、台湾への販売にも取り組んでおり、地域創生を担える活動である。今後も引き続き、地域を牽引できる学校となつてほしい。	「6次産業化プロデュース事業」が2年目を迎え、アロマキャンドルに加え地元特産品である「半田素麺」のかわり素麺を考えることや、通年消費に向けてのレシピを提案する。またスーパーオンラインハイスクール事業でも国内のみならず海外にも美馬地域の魅力を発信していく。
				②	企業との連携強化を図る。	1	企業と連携した地域貢献活動を推進する。				美馬交流館と協力し、「みまから」の生産や販売に関する新しいアイデアを提案する。			
2						販売実習・インターンシップ等を積極的に行い、職業・勤労意識を高める。	販売実習・インターンシップ参加生徒の満足度を85%以上にする。	販売実習9名・海外マーケティング販売実習12名・インターンシップ18社53名が積極的に参加した。参加者の満足度は100%である。	A					
③	地域との連携強化を図る。	1	商品開発・伝統工芸の継承や観光振興を地域と連携した活動を推進する。	「みまから」を使った商品開発や和傘作りを行う。	日乃出本店さんと協力し「みまからさつくりーふ」を完成した。	A								

重点課題	重点目標		活動計画	評価指標	評価指標による達成度と活動計画の実施状況	評定	総合評価及び所見	学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方策
	全体レベル	下位組織レベル							
工業・商業教育	各種競技会等へ積極的に参加し、国家資格、検定試験等に全力を挙げて取り組む。スーパーオンリーワンスクール事業等の成果を生かした本校ならではの教育を推進する。	① 3年間をとおして職業資格・検定の取得を行うと共に、各種競技会へ参加する。	1 3年間の資格・検定取得指導体制を取り、全校生徒が複数の資格・検定を取得する。	工業学会優秀生徒表彰(資格)を75%以上にする。 全国商業高等学校協会主催の検定3種目以上1級取得者を10%以上にする。 他科の資格・検定取得者数を10名以上にする。	工業学会優秀生徒表彰は121名中76名で63%となった。全商主催の検定3種目以上1級取得者は48名中11名で23%であった。 他科の資格・検定取得者は6名であった。	A	(評定)  A	昨年度に引き続き、競技用ロボット・マイコンカーラリー・ものづくりコンテスト大会等で好成績を残し、珠算・電卓競技会・簿記コンクールの全国大会出場を果たしていることは素晴らしい。県西部地区における専門教育の中核となる目標に向かって、一生懸命に取り組んでいる様子がよくわかる。今後も引き続き、特色ある学校づくりを目指してほしい。	全校体制で国家資格など、各種資格・検定試験に全力を挙げて取り組むことを目標に、次年度も努力していく。 数々の大会に出場し、結果を残せた年となった。来年度はさらに専門教育の充実に取り組みるとともに探究心を深め、全国大会での上位進出を目指し努力していく。
			2 競技用ロボット・マイコンカーラリー・ものづくりコンテスト大会・珠算電卓競技大会・簿記コンクール等に出場し、全国大会に出場する。	工業科・商業科とも全国大会へ、1種目以上出場する。	マイコンカーラリー全国大会、全国高校生ロボット競技大会に昨年度に続き出場した。また、珠算・電卓競技会の全国大会出場を果たした。	A	(所見) 工業科商業科ともに資格・検定の取得に精力的に取り組む、多くの生徒が資格・検定に合格することができた。		
		② 工業科・商業科に渡る知識と技術を生かし、共同しながら特色ある教育を展開する。	1 地域の特産品の「みまから」等を教材とした実践的学習を確立する。	「フルセットみまから唐辛子栽培システム」を開発する。	雨水、風力、太陽光を活用したフルセットの栽培システムの各部の改良を行った。	A	工業科と商業科がそれぞれの特色を活かし協力することでみまから栽培システムの取組も充実した。		